

2024 年度・大学院 FD 活動報告

2024 年度における大学院の FD 活動は、修士論文の指導体制を整備・強化していく方針を基に、下記の活動を実施した。

1. 基礎的学修スキルの育成

(1) 活動内容と成果

2024 年度から始まった「研究方法論演習」で取り扱うべき内容を共有し、改善を行うための FD 研修会を 5 月に実施した（資料①）。「研究方法論演習」を担当する教員が、授業で取り扱う内容を説明し、また学生の反応や学習状況等について、報告を行った。これを基に、他の演習担当教員は情報を共有し、さらに議論を行った。この FD 研修会は、後期から始まる演習につなげるための基礎となったと考えられる。

9 月に実施した FD では、修士論文執筆活動に必要な情報収集方法や、文献引用方法、フォーマット等の形式面について、統一的な取扱いを行うために、オンライン文献管理ソフトの紹介がなされた。2025 年 1 月論文指導要領の作成について、昨年及び今年の修正論文執筆活動状況を基づき、検討を行っている。

(2) 評価

今までは、それぞれの演習担当教員が指導してきた内容を、大学院として統一的に指導する素地が整えられつつある。また修士論文の審査基準を満たす指導要領作成の検討を開始した。

2. 修士論文指導の充実・強化

(1) 活動内容と成果

修士論文完成までのマイルストーンとして位置づけられる各発表会について、見直しや改善を行うための FD 研修会を実施した。まず 6 月には「研究計画発表会 (7/13)」について、実施方法や改善点について議論を行った。10 月には今年度初めて実施する「中間報告会 (11/2)」の実施内容等について、検討を行った。ここでは主査・副査が、学生に対してどのような指導をすべきか、どのようなコメントを出すか等の議論を行った。1 月には一年の総括 FD を実施した。主査・副査の決め方、論文最終修正期間の設定などについて議論を行った。

(2) 評価

昨年までは、6 月の計画発表会から最終試験まで、全体報告をする機会が無かったため、学生の修士論文執筆状況に差が見られた。これを改善するために、今年度より「中間報告会」を実施することとした。今年の修士論文の完成度から「中間報告会」の効果を確認できた。